

平成21年度第1回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成21年度第1回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成21年7月27日(月)午後1時30分～3時30分
3. 開催場所 木更津市役所 4階会議室
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席9名
金子馨委員、橘田昭雄委員、實形裕介委員、高崎繁雄委員、藤平量郎委員、
野中徹委員、三浦茂一委員、須田昭平委員、永野昭委員、
教育委員会事務局8名
初谷教育長、栗原教育部長、露崎次長、能城文化課長、半澤主幹、戸倉副主幹
石川主査、井上主査
5. 議題及び公開又は非公開の別
議題1 委員長、副委員長選出について(公開)
議題2 市史編集事業の概要について(公開)
議題3 今年度の編集委員会の日程について(公開)
その他(公開)
(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局 平成21年度第1回木更津市史編集委員会を開会いたします。
本日の市史編集委員会は、相山委員より都合により欠席の連絡がありましたので報告します。なお、会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により会議は成立しております。
また、会議は公開で行いますのでご了承下さい。
なお、この委員会は本日が初顔合わせでございますので、委員の皆様、名簿順に自己紹介をお願いいたします。3ページの委員会委員名簿順により、金子委員よりお願いいたします。

各委員 自己紹介する

事務局 次に、事務局職員の自己紹介をさせていただきます。

事務局職員 自己紹介する

事務局 議事に入りたいと思いますが、議長は委員長が務めることになっておりますが、第1回会議ということで、委員長、副委員長が決まっておりません、決まるまでの間、議事進行

は、栗原教育部長が務めさせていただくことで、よろしいでしょうか。

各委員 (異議なし)

事務局 それでは、栗原部長に議事の進行をお願いします。

仮議長(栗原部長) 会長、副会長が決まるまでの間、暫時仮議長を務めさせていただきます。

議題第1号 会議次第は役員選出となっておりますが、委員長及び副委員長の選出について議題に供します。事務局より説明願います。

事務局 4ページをご覧ください。附属機関設置条例第4条により、委員長及び副委員長の選出は、委員の互選とされております。そこで、委員長1名、副委員長2名の選出をお願いするものでございます。また、この市史編集委員会の説明ですが、5ページの一番下の欄に記載されていますが、「市史編集計画の審議と調査を行い、事業遂行に必要な事項を市長に答申又は建議すること」でございます。以上です。

仮議長(栗原部長) 事務局より委員長1名、副委員長2名を選出願いたいとのことですが、いかがいたしましょうか。

各委員 (事務局の考えは)

仮議長(栗原部長) 事務局の考えはいかがか。

事務局 事務局といたしましては、選考委員会による選考を考えております。

仮議長(栗原部長) 事務局より選考委員会を設けてはとの提案がありましたが、いかがでしょうか。

各委員 (異議なし)

仮議長(栗原部長) 異議なしとの声がありましたので、選考委員会を設けて選出をしたいと思いますが、選考委員の構成につきまして、事務局の腹案がありましたらお願いします。

事務局 事務局案としましては、選考委員に高崎委員、金子委員、藤平委員、の3名にお願いしたいと思います。

仮議長(栗原部長) 只今、事務局より高崎委員、金子委員、藤平委員の3名で、との提案がありましたがいかがでしょうか。

各委員 (異議なし)

仮議長(栗原部長) 異議なしとのことですので、3名の皆さんに別室で協議をお願いします。

他の委員の皆様には暫時休憩ということでお願い致します。

別室(入札室)にて、委員長1名、副委員長2名を選考する

仮議長(栗原部長) 選考結果がまとまったようですので、選考委員長から報告をお願い致します。

高崎委員 選考委員長の高崎でございます。それでは選考結果を報告いたします。

委員長 橘田 昭雄 委員

副委員長 三浦 茂一 委員

副委員長 實形 裕介 委員 をお願いしたいと思います。

仮議長(栗原部長) 只今、選考委員長の高崎委員から

委員長 橘田 昭雄 委員

副委員長 三浦 茂一 委員

副委員長 實形 裕介 委員

という報告がございました。委員の皆様にはご承認の拍手をお願いします。

拍手多数ということで委員長、副委員長選出の案件につきましては決定いたしました。

議長職を解かさせていただきます。

事務局 只今、委員長、副委員長が決定いたしました。選出されました橘田委員長にご挨拶をお願いします。

委員長 (橘田委員長挨拶)

事務局 議長は委員長にお願いする規定となっておりますので、橘田委員長に議長をお願いいたします。

橘田委員長 議長を務めさせていただきます、宜しくお願いいたします。

それでは議事を再開いたします。

議題第2号の「市史編集事業の概要について」、及び議題第3号の「今年度の編集委員会の日程について」は関連しますので一括して事務局より説明願います。

事務局(能城課長) 議題第2号議題の「市史編集事業の概要について」、及び議題第3号の「今年度の編集委員会の日程について」説明させていただきます。

資料2 「木更津市史」編集基本構想及び編集方針(案)について 説明

資料2-2 別巻(仮称) 図説「きさらづびとの軌跡」刊行計画(案) 説明

資料2-3 別巻(仮称) 図説「きさらづびとの軌跡」 説明

橘田委員長 只今、事務局より議題第2号及び議題第3号について説明がありました。

はじめに、質問があればお願いします。

須田委員 資料を見ると、「原始古代」の時代区分が先土器時代～平安時代までと、先土器時代～奈良時代までのものと事務局の見解が統一されていません。事務局の方で、時代区分をきちんと整理した方が良いです。どちらかといえば、「原始古代」については奈良時代までにした方が良くないでしょうか。

事務局 中世のはじまりは、鎌倉からあるいは、平安時代からという見解が諸説あり、明確にされておられません。この時代区分につきましては、編集委員の皆様にご指導いただき「原始古代」、「中世」の始まりなど、時代区分を決定したいと考えております。

野中委員 市民や中学生・高校生に親しみやすいもの、読んでもらえるようなものをめざすのであれば、中学・高校の歴史教科書での時代区分を採用すれば、よろしいかと思えます。

橘田委員長 中・高校の歴史の時代区分に従い、編集をしていけばよいですね。

實形委員 単に「平安時代」をいうと時代が長くなってしまうので、武家政権が成立する時期だと思えますが、移行期については、担当間で話し合っ決めていくようにすればよいと思います。

橘田委員長 他にありますか。今回は、第1回目の編集委員会ですので、どんな内容でも結構ですので、ご意見をお願いします。

藤平委員 市史の編集基本構想及び編集方針についてですが、「編集目的」というところですが、自然という言葉が一言も出てこないところが気になります。

やはり市民は自然にも関心があると思いますし、確かに、文化・歴史が一番大事なのだと思いますが、自然の方に関心が高い市民も多いのではないかと思います。木更津市の自然、自然により地域差が生まれ、市民の生活も作られてきたと思いますし、自然がないことはどうでしょうか。

木更津市の盤洲干潟は、日本全国に誇れるものですから、そういった自然の視点も市史には不可欠なものだと思います。

事務局 確かに、藤平委員のおっしゃるとおり、自然分野について今後、盛り込んでまいりたいと思います。

永野委員 通常、市史を刊行する順番は、「通史」「資料編」を刊行し、これらを集約または概略したものを「別巻」なり読本といった形で刊行しますが、市史の刊行を終える前に、別巻を先行してつくるのはなぜなのでしょう。

あえて、一番初めに「別巻」から刊行するということには、何か目的があればご説明願います。

事務局 市史を編集する上で、おっしゃるとおり、通常の刊行スタイルとは逆行していると承知しております。あえて、「別巻」から刊行する狙いとは、今後、新たな「木更津市史」を編集していく中で、資料提供、収集・調査など市民の協力者を得られるよう、市民の方に市史に対し関心を持ってもらえるようにしたいということでございます。そのひとつには、公民館等で活動している歴史サークル等のみなさんにも協力してもらいながら、編集に参加してもらおうと考えています。

橘田委員長 現在刊行されている市史は、「資料編」は刊行されていないので、そのため、新たな市史には、刊行後の新発見されたものなどの資料収集・整理からはじめる必要があり、その埋もれた資料の発見や調査に市民の協力を得、さらには自ら郷土史を学ぶ生涯学習という教育的な狙いがあるようですね。

野中委員 調査研究・執筆員の人数について、事務局から提案がされていますが、各班の構成人数や役割分担など同じにするつもりでしょうか。その班によって、必要な調査研究・執筆員の人数や役割分担などは変わると思います。

橘田委員長 この調査研究・執筆委員については、今後の編集委員会などで適切な人数を決めていくわけですが、この調査研究・執筆員の枠決め、人数等についてもう少々、詳しく説明ください。

事務局 この調査研究班については、目安として4班体制をとりました。そして、各班には、市の職員を除く委員を2名ずつ配し、執筆もお願いしたいと考えております。

また、市の職員の役割りにつきましては、博物館長には、館所蔵の資料提供、学芸員の調査研究等の人的協力をしてもらい、企画課長については、市制70周年記念事業の主管課ですので、行事等の調整等の必要があり、博物館や企画課との連携を図るため委員とし

ました。

各班の人数の割り振り等、9月に開催予定の第2回編集会議にて、委員のみなさまに再検討していただこうと思います。その前に、委員長、副委員長、事務局と事前に相談しながら、枠決めや人数等調整させてください。

橘田委員長 他にご意見等ありませんか。

高崎委員 これは、意見ではございませんが、金田の「梵天立て」は、中島の漁師が船の大錨を盗んだと疑われ、云々という口承が現在残っています。

「梵天」とは全国にいろいろな解釈がありますが、民俗学的に検証すると、正月に行う「成人儀礼」なのではないかと考えることが一般的です。

これは、地元で伝承する話と、史実に相違があるということとして、新しい市史を編集するにあたっては、他市、他県の類似する行事や資料などを踏まえ、地元で伝わる口承なども尊重しなければならないし、民俗学的な見解などをも考慮しなければならず、総合的に検討する必要があると思います。

橘田委員 地域の伝承を大切に守ることも大切ですが、もし、それが史実と異なる場合は、慎重に市史へ掲載しなければならないということで、貴重なご意見をいただきました。

このようなことは、伝統文化や民俗行事の解釈以外にありえることですから、慎重に編集していきましょう。

他にご意見などございませんか。

三浦副委員長 私は、木更津市に住みはじめて6年ほどで、いわゆる新住民でございます。

ですから、私自身、木更津の歴史を勉強させていただくつもりで、市民として市史の編集に参加させていただきます。また私は、千葉県史の編さんに20年ほど携わっておりましたので、そのノウハウを活かせればとも思っております。

新たな「木更津市史」は、本編、資料編、別巻と立派なものを刊行するとなれば、資料調査、資料編、通史を刊行し、その後に別巻（読本的なもの）という刊行計画でしたら、具体的なイメージもしやすいのですが、4年後の70周年に「別巻」を刊行する重要性もわかりますが、先に「別巻」を編集・刊行することに、自分のイメージがまとまりません。

80周年、90周年に刊行する目標もできそうですが、やはり市史刊行の長期的な計画がないと、別巻を刊行するのも無理なのではないでしょうか？しかし、できる限り、70周年記念に向けて「別巻」の発行に協力したいと思います。いつまでに、新たな木更津市史を刊行するのか計画はあるのでしょうか。

事務局 現時点では、発行計画等はありません。今後、70周年に発行する「別巻」の編集と平行して編集方針・刊行計画などを編集委員会にて決定したいと考えています。

今回、平成24年までに刊行物を出す中で、平行して市史の編集、刊行計画も編集委員の皆様にご検討いただければと思います。

三浦副委員長 しかし、別巻を刊行するには、市史全体の長期的な計画を先に立てなければ、別巻の刊行はやはり難しいのではないのでしょうか。

- 事務局 あくまでも目安ですが、10年程度を目安に市史を刊行したい希望があります。しかし、その前段に市制70周年記念誌として、市史を発行しようという事業目的があり、刊行しなければなりません。それと同時に、本格的な市史を刊行する市民の機運を盛り上げたいという目的もありますので、編集委員のみなさんにご指導願います。
- 三浦副委員長 本格的な市史を作るのと、別巻を作るのは別々に考えて、進める必要があります。資料調査活動、目録作成は今年度からなのか。来年度からやるのか。二通り考えて進めなければなりませんね。
- そして、ぜひ、市制80周年には木更津市に「文書館」を作ってもらいたいという個人的な希望があります。いずれにしろ、長期的な市史編集の展望を考えなければなりませんので、編集委員や事務局も強化を図ってもらいたいものです。
- 橘田委員長 實形さんは、何かご意見ありませんか。
- 實形副委員長 ご説明のありましたこの事務局案は、白紙に戻せるものなのか。ある程度、この素案に準じて編集方針等を決めなければならないものなのか。どうなのでしょう。
- しかし、4年後に刊行をめざし、市制70周年に別巻を刊行したい。そして、これを切っ掛けに、本編を編集するというアクションを起こしたいという事務局の考えは理解しましたので、市制70周年に刊行するもの以外に、市史の編さん事業を今後も継続的に行っていければと思います。
- 橘田委員長 私たち編集委員は、はじめに、70周年刊行を目標に別巻を刊行するということが、一番の任務であります。そして、別巻と本編を編集する計画はまだ、予想がつきませんが、今後、本編の市史刊行計画も平行して進めるということですので、委員のみなさんよろしく願います。
- 事務局 現在、確実に決定していることは、平成24年に70周年記念誌（別巻）を刊行することです。それに向けて、編集方針、刊行計画等の検討をお願いします。委員のみなさまにとっても、市史の具体的計画は難しいと思いますが、どの順番で発行していけばよいのか？発行するには、どのような準備、時間がかかるのか？など、お知恵を拝借して、編集委員会等で検討、決定していきたいと思います。
- 金子委員 確認ですが、A4版で、240ページとは、写真、図版、文章などすべてを入れてのページ数ですね。大幅なページ数の変更等はできないのですね。
- 事務局 はい。その予定です。
- 橘田委員長 他に何か、ご意見ありませんか。
- 野中委員長 70周年に意義ある刊行に協力していきますので、次回までに、今日話をまとめて、改めて事務局案を提案していただき、次回の編集委員会で決定できるよう、事務局は再検討願います。
- 藤平委員 君津市では、市史を刊行後に別巻を発行する計画がありましたが、予算的な問題等で発行できませんでした。ですから、木更津市の市史の刊行の順番は、通常と異なりますが、新しい考え方で良いかもしれませんね。

野中委員 富津市は、別巻を刊行してありますが、現在、もっとも利用されているので、木更津市でも、70周年に刊行するものは市民の親しみやすい良いものにしましょう。

三浦委員 別巻を出すことは、とっても良いことです。ですから、現在、どういうものを刊行したいのか、事務局側で次回までに具体的なものをまとめて欲しいです。

金子委員 70周年に刊行するものは、子どもたちに郷土に興味、関心を持ってもらえるようなものを刊行しましょう。郷土離れを防ぎ、新住民にも興味を持ってもらえるようなガイダンス的なものを刊行してはどうでしょうか。

また、編集する際には、文章表記については、統一する必要があります。そうでないと、とても読みづらいものとなりますので、事務局側で実際、校正等編集する際は注意してください。

須田館長 70周年記念事業については、私が昨年度、教育部長の際に持ち上がった話であります。木更津市史全体の刊行と、別巻を刊行することは、関連することで、今後4年間で、70周年の冊子を刊行することにベストを尽すのではなく、市史を刊行するために今年度からの4年間にベストを尽さなければならない事業です。

また、木更津市史を編集する際、民間で研究している方々で、資料をお持ちの方に協力していただき、市民参加の体制をつくるのも大変な作業で、事務局にはソフト面を強化して欲しいです。新しい発見を市民の方にどんどん提供してもらえる体制をつくって欲しいです。

實形副委員長 市史の編集は、継続して行っていかなければ意味がないことです。千葉市では、継続して編さん事業を行っており、予算化された年度に刊行しています。

木更津市でも、継続して資料収集、調査、保存など編集作業を行い、編さん事業は永遠に続け、資料調査の体制をきちんとつくるのが、理想です。資料保存・整理するということは、目録を作成しなければなりません。その目録があって、はじめて役立っていくのです。資料保存は、地道な作業と調査が不可欠なものです。

野中委員 行政としての事業は、一応の区切りも必要だと思う。予算とは、事業計画に伴って、積算に基づき予算化するため、漠然とした事業には予算は付けられませんよね。

ですから、事業の最終目的、長期計画をきちんと立てて予算立てし、事業の終了、事業完了はきちんと持たなければいけないとも思います。

橘田委員長 新しく協力委員、執筆者が入りますと、いろいろなご意見が出ると思います。

木更津市史を新たに作り直すという根底には、大きな目標があります。刊行するために、70周年を契機として別巻を刊行しましょう。市民に分かりやすい、親しみやすいテキスト的なものを刊行していきましょう。

今回は、なかなか、細かなお話を検討するまでには行きませんでした。第2回の開催までにもう一度事務局で検討してもらい、委員の皆さんと編集構想・方針、編集計画を決めていきたいと。班構成など、また調査研究・執筆員を決めたいと思いますので、皆様のご意見をお願いします。

事務局 委員長、副委員長と9月までに今回のお話を整理し、第2回の編集委員会に再考した事務局案をお示ししたと思います。

また、具体的に、調査・執筆者をご紹介していただき、次回までにメンバーをご提示できればと思います。

橘田委員長 では、みなさん、近いうちに紹介カードを事務局の方へご提出ください。

橘田委員長 各委員さんの意見も他に無いようですので、今日の協議はこれで終了したいと思います。事務局は、各委員の意見を整理して計画の検討を願います。

その他、事務局から何かありますか。

事務局 次回の会議開催予定についてですが、9月28日の週で28日から10月2日までの期間にお願いしたいと思います。場所は、図書館等を考えています。

結論：次回開催日 平成21年9月28日（月）午後1時30分から

次回開催場所 木更津市立図書館 2階会議室（小会議室）

橘田委員長 他に何かございますか。なければ、本日の議題は終了したいと思います。

事務局 本日は、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席いただきまして誠に有難うございました。

これをもちまして、平成21年度第1回木更津市史編集委員会を閉会いたします。

平成21年7月27日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘 田 昭 雄